

「第2回防衛力の構造改革推進委員会」、「第2回人的基盤に関する改革委員会」
及び「第14回総合取得改革PT」
議事要旨

1 日時

平成23年2月10日（木） 1530～1615

2 場所

防衛省 A棟11階 第1省議室

3 出席者

小川防衛副大臣 松本防衛大臣政務官 広田防衛大臣政務官 西元防衛大臣補佐官
及川防衛大臣補佐官 事務次官 大臣官房長 防衛政策局次長（防衛政策局長代理）
運用企画局長 人事教育局長 経理装備局長 地方協力局長 衛生監 技術監 鈴木
審議官 筒井審議官 統合幕僚長 陸上幕僚副長（陸上幕僚長代理） 海上幕僚
副長（海上幕僚長代理） 航空幕僚長 情報本部長 技術研究本部長 装備施設本
部長

4 小川防衛副大臣冒頭発言

限られた制約の中で、最大限のプレゼンスを発揮するという限界までの努力が求められているのが、この委員会の使命だと考えている。

新大綱に書かれている「動的」という部分を如何に具現化していくのか、大変難しい課題ではあるが知恵を絞り、結果の残せる委員会にしていきたい。

5 議事概要

(1) 広田政務官から「統合による機能強化・部隊等のあり方検討」及び「人的基盤に関する制度改革の推進」に関する現状説明

「統合による機能強化・部隊等のあり方検討」であるが、新大綱の動的防衛力を具体化する上で、統合運用機能強化は大変重要である。その中でも、南西方面への機動展開、指揮統制機能・基本部隊の在り方などが特に肝になると認識している。

人的基盤に関する制度改革の推進について、特に自衛隊にとっては人というものは財産である。その中で、早期退職制度については政府を挙げて取り組んでいかなければいけない課題であり、他の公共部門への再就職の仕組みづくりについて、縦割りを排して政治主導でやっていかなければいけない。また、厳しい財政状況を踏

まえながら、後方任用制度のあり方についても具体的に進めていかなければならない。

衛生機能の強化に関する検討委員会については、衛生機能というのがこれまで重要視されていながら、きちんと位置づけをされてこなかった面があり、この分野についてもしっかりとしたメッセージを発していけるような取組をしていきたい。

(2) 統幕計画課長、人事計画・補任課長から資料に沿って説明

(3) 松本政務官から「横断的な資源配分の一元化・最適化の検討」及び「総合取得改革の推進」に関する現状説明

横断的な資源配分の一元化・最適化については、限られた予算、人員の中で、防衛力の実効性を向上させるため、大胆なメリハリをつけた選択と集中、前例にとられない見直しを進めていくことが必要であると認識をしている。具体的には、現場部隊の装備・人員の実情を把握しつつ、動的防衛力を実現するとの観点から、横断的な視点で必要な機能に、より効果的に予算を配分するような事業管理・予算配分の仕組みを検討していきたい。

総合取得改革の推進についてであるが、これまでも総合取得改革推進委員会の枠組みのもとで検討を進めてきたところである。動的防衛力の構築に向けて、国際環境の変化への対応、防衛生産・技術基盤戦略、契約制度、PBLの導入などに関する検討を加速している。

(4) 防衛計画課長、装備政策課長から資料に沿って説明

(5) 衛生官から資料に沿って説明

(6) 質疑応答

各グループは連携しつつ検討を進めることが必要。

特に、統合による機能強化は機動展開、指揮統制機能が重点である。

人的基盤に関する制度改革は非常に大きな課題だと認識している。自衛隊として階級構成・戦力設計をどうするか、先ずそこをしっかりと各幕で整理しなければならない。

6 小川防衛副大臣発言の概要

それぞれ難しい課題であることは間違いなく、それぞれが密接に結びついている。ある問題が解決しないと次にいけないというそれぞれの問題の複雑性、その順番を図解化しないとそれぞれが解決に向かわない。したがって、どういった順序で事柄を決めていくのかの議論をして、その中から順番と目標を定め、濃密な議論を行い、成果を得るように進めていきたい。